

令和7年度第2回経営協議会議事要録

日 時： 令和7年6月19日（木） 15：50 ～ 17：12

場 所： 熊本大学事務局棟1階大会議室 ほか

出席者： 小川 久雄、富澤 一仁、大谷 順、水元 豊文、黒沼 一郎、平井 俊範、
秋池 玲子、Oussouby Sacko、笠原 慶久、木下 統晴、倉津 純一、後藤 芳一、
竹内 信義、永田 佳子、原 幸代、本松 賢

欠席者： 赤木 由美

陪 席： 宮尾 千加子、渡辺 啓子、佐藤 敏郎

議 題

1. 役員の業績評価について

議長から、役員の退職手当に係る業績勘案率の決定において、その指標となる業績評価の実施が必要であるため、役員の業績評価の実施について審議願いたい旨提案があった。

次いで黒沼理事から、資料1に基づき、内容について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

2. 令和6事業年度決算について

議長から、国立大学法人法に基づき、財務諸表等を文部科学大臣に提出する必要があるため、令和6事業年度熊本大学財務諸表（案）等について審議願いたい旨提案があった。

次いで黒沼理事から、資料3-1～3-4に基づき、財務諸表（案）等の内容について説明があった後、追加資料1-1・1-2に基づき、監査結果について報告があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

なお、議長から、本件は役員会に付議する旨付言があった。

3. 令和8年度概算要求事項について

議長から、令和8年度概算要求（案）について審議願いたい旨提案があった。

次いで黒沼理事から、資料5に基づき、令和8年度概算要求において計画している要求事項等について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

なお、議長から、本件は役員会に付議する旨付言があった。

また、今後文部科学省との協議による概算要求（案）の変更等については学長一任とすることが併せて了承された。

報告連絡

1. 第4期中期目標・中期計画達成に向けた令和6年度の実績報告について

富澤理事から、資料2に基づき、第4期中期目標・中期計画達成に向けた令和6年度の実績報告について報告があった。

2. 令和6年度資金運用報告及び令和7年度資金運用について

黒沼理事から、資料4に基づき、令和6年度資金運用結果及び令和7年度資金運用計画について報告があった。

3. 今後の財政見通し及び改善方策について

黒沼理事から、資料6に基づき、本学における今後の財政見通し及び改善方策について説明があった後、種々意見交換が行われた。

(意見交換の概要は次のとおり。◇は委員からの質問・意見、◆はそれに対する回答等)

◇ 今後もインフレが進行し、再び人事院勧告にも対応していくことを考えても、大学として財源を確保するために、このような取組は非常に望ましい。一方で、委託運用におけるキャッシュインカム2.5%を含む年5%という運用目標は、ハイリスクであるように感じる。損失を考慮したリスク管理が必要になるため、アドバイザーの意見をよく伺いながら取り組まれてみてはいかがか。また、予算編成にあたってはこのキャッシュインカムはあまり前提にせず、余裕を持って資金運用に臨むことが安全であるように思う。

◆ 外部コンサルタントからも、年5%という目標についてはあくまで将来的なものであり、当初は年2.5%程度を目指して運用を始める旨の助言をいただいている。

4. 熊本大学病院の経営状況等について

平井病院長から、資料7に基づき、大学病院における今年度の経営状況等について説明があった後、種々意見交換が行われた。

(意見交換の概要は次のとおり。◇は委員からの質問・意見、◆はそれに対する回答等)

◇ 入院患者の延べ数が減った原因として、例えば人手不足などが考えられるのか。

◆ コロナ禍以降、全国的に多くの病院で入院患者数が減少していると聞き及んでいる。当院についてもそのような影響があるものと思われる。

◇ そのような状況は、今後収まっていくのか。

◆ 今後の動向についてはまだ分からないが、現在も多くの病院でコロナ後の影響が続いている模様である。例えば、長崎大学病院においては、患者数の減少により、今年度から病床数を小規模化している旨聞き及んでいる。

5. 新たな教員人事制度の検討について

富澤理事から、資料8に基づき、新たな教員人事制度の検討について説明があった後、種々意見交換が行われた。

(意見交換の概要は次のとおり。◇は委員からの質問・意見、◆はそれに対する回答等)

- ◇ 非常に画期的な取組であると思う。他大学で同様の事例はあるのか。
- ◆ 広島大学が一例として挙げられる。
- ◇ 各部局の教員にとって、教員人事に係る事案が移管されることは悩ましいものであるように思うが、本制度を通して大学のガバナンス力が強化され、一体感を持って社会や地域の諸課題に取り組まれることは、大学にとって望ましいのではないか。また、本件を進めるにあたっては、学長がいかに指揮を取り、大学全体の教育にどのように影響するかなど、学内に向けて説得材料を出していくことが重要である。
- ◆ 全学における教員研究分野の重複を解消するため、どのような教員がどのような教育をできるかという情報を全て大学本部で把握できるように、I R機能を充実させていきたい。
- ◇ 本件を進めるにあたって、難しいところもあるかと思うが、限られた経営資源の中で教育も充実させるためには、必要なことであると考えます。
- ◇ チャレンジングで素晴らしい取組であると思う。米国の大学では、教員の業績評価において様々な評価指標が存在し、それに基づく評価が行われることで平衡が保たれているようである。本制度においても、様々な価値基準により公平感を生み出すことが重要であると考えます。
- ◆ 貴重な意見に感謝する。教員研究分野の重複については、実態を改めて検証し、今後の本学の躍進の鍵を握る分野への重点的な人材配置が実現できればと考えている。本制度を導入しなければ、大学として今後存続していくことは難しいように思う。今後も適宜報告させていただきたい。

6. 寄附講座の更新について

議長から、資料9に基づき、次のとおり寄附講座の更新について報告があった。

○ 大学院生命科学研究所「加齢医学寄附講座」の設置期間更新

更新期間：令和7年6月1日～令和9年5月31日（2年間の期間更新）

寄附者：医療法人桜十字

7. 共同研究分野の更新について

議長から、資料10に基づき、次のとおり共同研究分野の更新について報告があった。

○ 半導体・デジタル研究教育機構「半導体プロセス評価共同研究分野」の設置期間更新

更新期間：令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年間の期間更新）

共同研究者：ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社

8. 令和7年度主要行事予定について

議長から、資料11に基づき、令和7年度の本学の主要行事予定について報告があった。

9. 令和7年度経営協議会開催日等について

議長から、資料12に基づき、令和7年度の本会議の開催日等について報告があった。

10. その他

(1) 日台大学学長フォーラムの開催について

大谷理事から、追加資料2に基づき、日台大学学長フォーラムの開催について報告があった。

以 上

○ 次回開催：令和7年11月20日（木）

<配布資料>

参考資料	国立大学法人熊本大学経営協議会名簿 ほか
資料 1	役員の業績評価について（案） ほか
資料 2	令和6年度に係る主な取組 ほか
資料 3-1	財務諸表の要旨
資料 3-2	令和6事業年度財務諸表（案）
資料 3-3	令和6事業年度事業報告書（案）
資料 3-4	令和6事業年度決算報告書（案）
資料 4	令和6年度資金運用報告 ほか
資料 5	令和8年度熊本大学概算要求事項（案）
資料 6	今後の財政見通し及び改善方策
資料 7	熊本大学病院の経営状況等について
資料 8	新たな教員人事制度の概略
資料 9	寄附講座の更新について ほか
資料 10	共同研究分野の更新について ほか
資料 11	令和7年度主要行事予定
資料 12	令和7年度経営協議会開催日等
追加資料 1-1	監事の監査報告書
追加資料 1-2	独立監査人の監査報告書
追加資料 2	2025日台大学学長フォーラム概要